木質バイオマス燃料　ペレットストーブ

EF3Bi FS

強制排気形半密閉式ペレットストーブ

取扱説明書

**このたびは本品をお買い上げいただきまして
まことにありがとうございます。**

■ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をお読みいただき、正しく使用してください。
この「取扱説明書」は、大切に保管しておいてください。

■このストーブは弊社標準の施工方法などに基づいて、給気筒・排気筒を必ず取り付けてから使用してください。
給気筒・排気筒の据付け・移設工事は必ず販売店、または弊社指定店などに依頼してください。
給気筒・排気筒を取り付けずに使用すると一酸化炭素中毒に至るなど重大な危険となるおそれがあります。

地球にやさしい
TOYOTOMI
ペレットストーブ

安全のために必ずお守りください

●お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
●ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠警告(WARNING)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意(CAUTION)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

	この絵表示は、「禁止」されている内容です。
	この絵表示は、「注意」していただく内容です。
	この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

●説明文中の**「お願い」**事項は、本機を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。

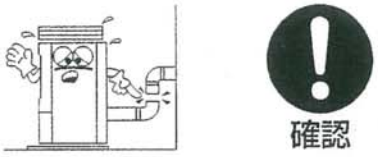
⚠警告(WARNING)

★使用燃料は木質ペレット以外厳禁

燃料タンク内には木質ペレット以外の固形燃料やガソリンなどの液体燃料を絶対に入れないでください。
火災の原因になります。

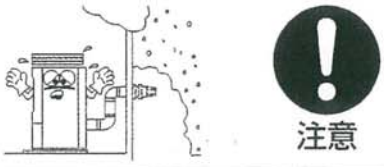
★外れ危険

給気筒・排気筒が正しく接続されているか必ず点検してください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



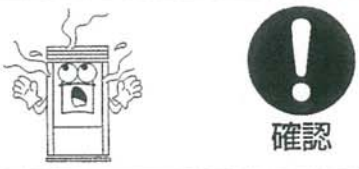
★給気筒トップ・排気筒トップ閉そく危険

積雪の多い地方では、給気筒トップ・排気筒トップが雪でふさがれないように注意してください。
排ガスを再度吸込んで異常燃焼を起こすことがあります。



★かん合部の外れ危険

灰トレイや燃料タンク扉などが確実に閉まっているか確認してください。
外れ・すき間があると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



★燃焼窓開放厳禁

燃焼窓が確実に閉められていることを確認してください。
燃焼中、外れ・すき間があると排ガスや炎が室内に漏れて、火災が発生するおそれがあります。

★スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブに近付けたり、周囲に放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。

⚠警告(WARNING)

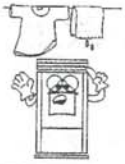
★温風吹出口をふさがない

衣類、紙などで温風吹出口をふさがないでください。
異常燃焼や火災の原因になります。

禁止

★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
落下した衣類に火がつき、火災の原因になります。



禁止

★ライター・マッチ等で着火しない

やけど・けがの原因になります。

禁止

★着火剤は使用しない

やけど・けが・火災の原因になります。

禁止

★本体や内部には水をかけない

ショート・故障・感電・さびの原因になります。

禁止

★災害・停電時は、電源を切り窓を開けて換気をする

この機械は電気式です。停電時は排気ファンがとまったり、煙が出ることがあります。
このような時は、あわてずに窓を開けて換気してください。

指示

安全のために必ずお守りください

⚠注 意（CAUTION）

★カーテン、可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは、使用しないでください。
ストーブ周辺に可燃物を置かないでください。
火災の原因になります。

★やかんのせ禁止

やかんなどをのせないでください。
振動や接触によって、やかんの落下や、やかんの熱湯がこぼれ、
やけどのおそれがあります。

★排気筒延長時の注意

排気筒を1m以上延長する場合は設置条件によってストーブ内の調
節が必要となることがあります。販売店にご相談ください。
そのまま使用しますと、異常燃焼の原因となります。

★燃料供給時消火

燃料供給は、必ず消火してからおこなってください。
火災ややけどのおそれがあります。

★指や異物を入れない

ストーブの内部や燃焼室内及び上面、燃料タンク内には紙、布、プラ
スチック、スプーンなどの異物を入れないでください。
火災や感電、予想しない事故の原因になります。

★異常時使用禁止

においい、すすの発生、炎の色など異常を感じたときは使用しないで
ください。
運転スイッチを押して「切」にしてください。
異常燃焼のおそれがあります。

- 点火不良で、何回も点火操作をした後、燃焼バーナー内に燃料が溜まり、点火しにくいことがあります。
  一度溜まった燃料を取り出して処分してから再点火してください。
- 万一ストーブから火が出たり、床などに火がついたときは、あわてずに消火器で消火してください。

★高温部に注意

燃焼中や消火直後は、燃焼窓や天板などの高温部に手や顔などを
近づけないでください。
やけどのおそれがあります。

★高温部接触禁止

温風吹出口、排気筒、排気筒トップなどは高温になります。
手などを触れないでください。
やけどのおそれがあります。

★回転体に注意

運転中の燃焼タンク内などに手などを入れないでください。
回転物にはさまれ、けがのおそれがあり大変危険です。

⚠注 意(CAUTION)

★推奨外燃料の使用禁止

木質ペレット以外の固形燃料などは絶対に使用しないでください。
故障や燃焼不良の原因になります。
推奨以外の燃料の使用はストーブに支障をきたす場合があります。
使用には豊臣工業株式会社の認定を受けてください。
認定のないものを使用した場合は、保証の対象外となります。

★燃料たまり点火の禁止

バーナー内に燃料をためた状態で点火させないでください。
不完全燃焼や故障の原因になります。

★燃料保管方法の注意

雨風の当たらない屋内で保管してください。
湿った燃料を使用すると、不完全燃焼や故障の原因となります。

★保管時にしていただくこと

長期間使用しないとき、又は保管するときは、必ず燃料タンク内から燃料を抜き電源プラグをコンセントから抜いてください。

★長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因となります。

★分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は危険です。

★電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこり(及び金属物)を除去してください。
ほこりや異物がたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。

★電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、傷付けたり、束ねたり、物をのせたり加工しないでください。
また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
電源コードが破損し、火災や感電の原因となります。

★電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。
火災の原因になります。
ぬれた手での抜き差しはしないでください。感電の原因になります。

★腰をかけたり物をのせない

ストーブの上にのったり、腰をかけたりしないでください。ストーブの故障ややけどのおそれがあります。

安全のために必ずお守りください

⚠注意（CAUTION）

★お子様やお年寄りのご使用に注意

お子様やお年寄り、体の不自由な方がお使いになる場合は、やけどや、
部屋の換気などについて、周囲の人が充分に注意してください。

★廃棄するとき

製品を廃棄処分するときは、必ず燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。

燃料が入ったまま廃棄するとリサイクルの際思わぬ事故が発生するおそれがあります。

★温風に直接あたらない

温風や輻射熱に直接長時間あたらないでください。
低温やけどや、脱水症状になるおそれがあります。
温風を直接吸い込まないでください。気分が悪くなることがあります。

★改造使用の禁止

改造して使用しないでください。
火災や、排ガスが室内に漏れる原因となり、危険です。

★換気扇使用禁止

ストーブを使用している時は室内で換気扇を使用しないでください。
異常燃焼や、立消えするおそれがあります。

★排気筒トップ付近の可燃物近接禁止

排気筒トップの近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。
火災のおそれがあります。

★可燃性ガス使用禁止

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの（ガソリン、ベンジン、シンナー）、スプレーを使用しないでください。
火災や故障の原因になります。

★高地（標高1000m以上の場所）

酸素濃度が薄いので不完全燃焼します。
1000m以上の場所では再調整が必要ですので販売店までお問い合わせください。

★お手入れの際は、ストーブ及び排気筒が冷えてからおこなってください。

やけど、けがの原因になります。

★ストーブの表面のお手入れには研磨剤の入ったクレンザーなどは使わないでください。

塗装のはがれ、サビの原因になります。

～操作手順～

～はじめに～

1）燃料タンクに木質ペレット（推奨燃料は、ホワイトペレット）を投入してください。

2）電源プラグをコンセントに差し込んでください。

3）燃焼室扉を開け、燃焼室内の燃焼バーナーが確実におさまっているか確認してください。（図１）

4）燃焼室扉を閉め、燃焼室扉・灰トレイが確実に閉まっているか確認してください。

図１

～本体を動かす（着火させる、燃焼させる）～

1）本体右側面の操作部のスタートスイッチを押してください。（図２）

2）燃料供給ダイヤル（下側のダイヤル）を右廻しして、<u>12 時の位置</u>にしてください。（図２）

●スタートスイッチの上のランプは着いたり消えたりしますが、異常ではありません。ランプが着いたままで、燃料供給がなされていない場合は、排気経路を確認してください。

●右図の「BLUE　ZONE」「RED　ZONE」は通常使用しない範囲ですが、燃料の種類や燃焼の諸条件により、燃えが悪くなったり燃え過ぎたりする場合にのみ利用してください。

図２

3）本体左側面の燃焼用空気調節レバー（ダンバーロッド）を、一旦押し切ったところから 20～30mm程度引っ張ってください。（図３）

●着火までは、おおよそ 5～10 分要します。

●着火する寸前は 1～3 分程度白煙の排気が出ますが、着火しましたらほぼ白煙は無くなります。

図３-1

4）本体右側の操作部の送風ファン調節ダイヤル（上側のダイヤル）を廻して、お好みの温風量を設定してください。（図２）

●送風を止める場合は、左廻りにカチっと音がするまで廻し切ってください。

●送風ファンを廻さずに放置しますと、本体が過熱してしまい、安全装置が働いて強制的に最大量の送風が送られるようになります。また天板が加熱してヤケドする恐れがありますので注意してください。

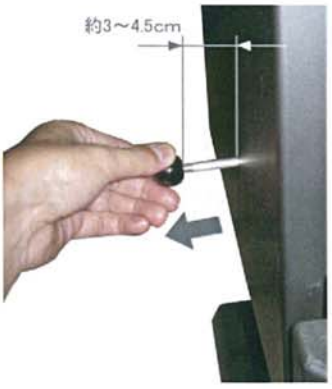


図３-2

5）スタートスイッチを押して約 15 分経過後に止まった場合は、燃料が正しく供給されていないか、低い室温からスタートした為、排気温度が規定温度まで達していないことが考えられます。燃料が正しく燃焼バーナー内に投下されているかを確認し、再度スタートスイッチを押して、再点火操作してください。

●運転途中で止まった時、白煙が室内に漏れることがありますが、あわてずに窓を開け、再点火操作をおこなってください。

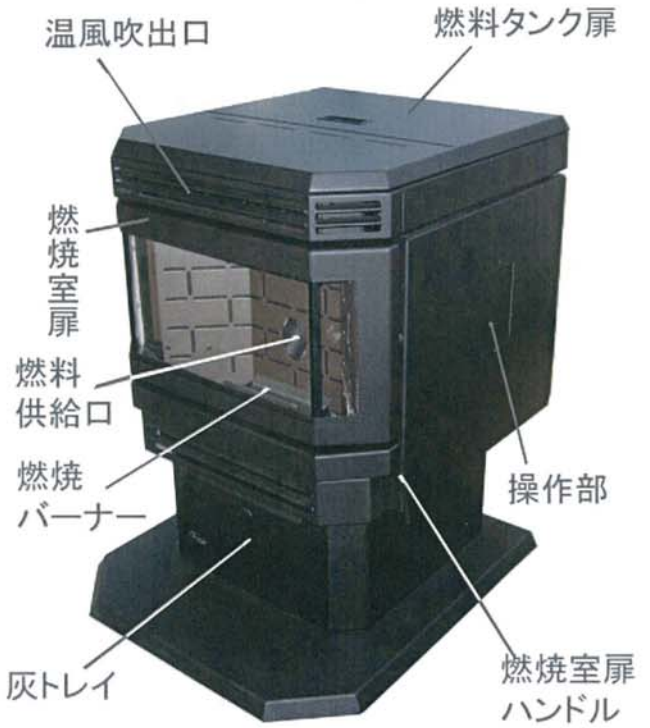
～本体を止める（消火する）～

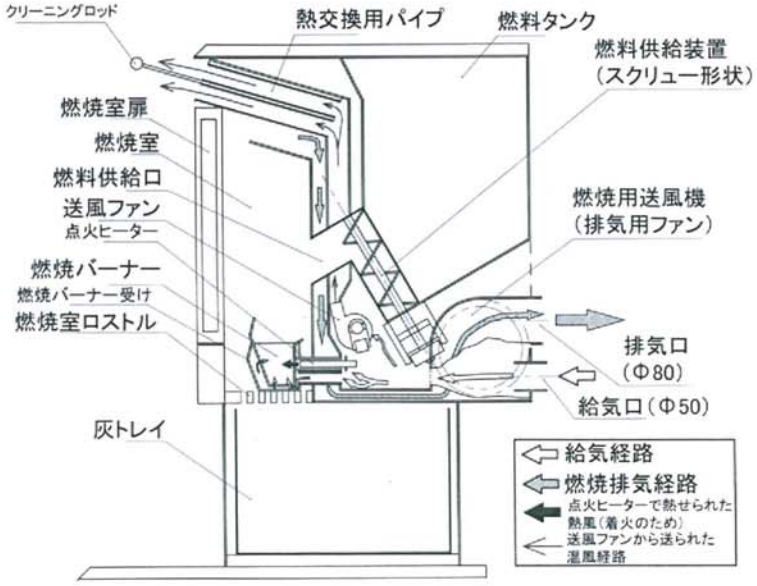
1）燃料供給ダイヤル（下側のダイヤル）を左廻りにカチっと音がするまで廻し切って下さい。

2）消火の確認をおこなってください。

●通常は、消火操作を行なってから火種が5～10分程度で無くなり、20～30分経過して本体の電源がOFFします。（排気温度が規定以下まで下がったとき）

各部のなまえ





点検・手入れ

定期点検のおすすめ（1シーズンに1回程度）

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。機器の寿命をより長く、より良い燃焼で快適に安全にお使いいただくために、１シーズンに１回程度、シーズン終了後などに、販売店、又は弊社指定店などに点検を依頼してください。

日常の点検・手入れ

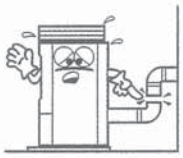
お願い

★点検・手入れをするときは、必ずストーブを消火し、電源プラグをコンセントから抜いて、ストーブの温度が充分下がってからおこなってください。やけどや感電をするおそれがあります。
★部品に触るときや、内部を掃除するときは、手をけがしないように、手袋をはめておこなってください。
★ストーブをベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色します。
★電装品や燃焼バーナー受けの取りはずし、分解はおこなわないでください。

シーズンはじめ

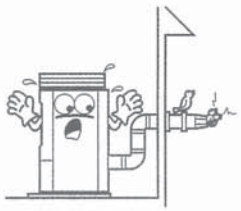
給気筒・排気筒

●給気筒・排気筒の接続箇所が外れていないか確認してください。



排気筒トップ

●室外の給気筒トップ・排気筒トップが鳥の巣やビニール袋などでふさがれていないか確認してください。



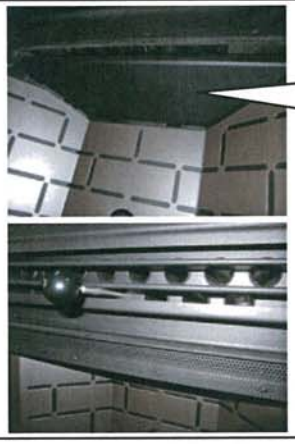
使用のたびに

周囲の可燃物

●ストーブの周囲は、常に整理、清掃し、燃えやすいものを置かないようにしてください。
●ストーブはいつも清潔に掃除してください。
汚れたままのご使用は危険のもとですし、ストーブのいたみを早めます。
●給気筒・排気筒・給気筒トップ・排気筒トップの周囲には、危険物や障害物がないようにしてください。

◎温風送風用パイプの掃除

・燃焼室内上部の板を取り外します。
・温風吹出口にあるクリーニングロッドにつまみ（黒い球）を付けた後、クリーニングロッドを前後に動かし、温風送風パイプを掃除してください。クリーニングロッドと連動した板がパイプに付着した灰を払い落します。
・クリーニングロッドは燃焼中、消火直後に触れるとやけどします。温風送風用パイプを掃除するときは、本体が冷めてるときに行ってください。また、扉は必ず閉めて行ってください。灰が室内に出てきます。温風送風用パイプの掃除後つまみは取り外してください。温風の熱で変形します。



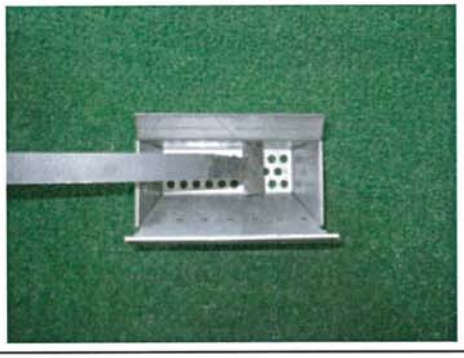
◎燃焼室内の掃除

・灰の発生量は使用時間、燃料の質、燃焼状態によって異なります。使用前に燃焼バーナーを見て、燃焼バーナーの底の穴がきちんと開いていることを確認して下さい。穴が開いている場合はそのままお使いください。穴が塞がりかけている、または穴が塞がっている場合には以下の通り燃焼室内の掃除を行ってください。着火ミス、燃焼不良の原因となります。

・燃焼バーナーに溜った灰。ほとんどの穴が塞がっている。このような状態になっていたら、必ず掃除を行ってください。

・燃焼バーナーに灰が溜っていたら、掃除用ホウキで燃焼バーナー受けに落として下さい。

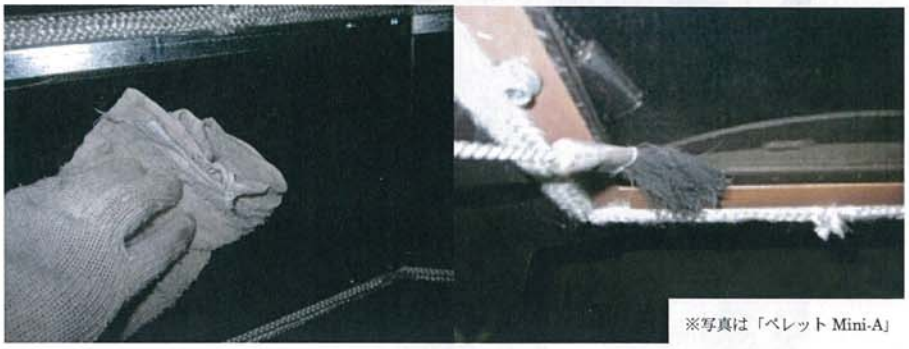
・燃焼バーナーにクリンカ（灰の塊）が生成していたら、燃焼バーナーを取り出し、へら棒にてクリンカを取り除きます。



・燃焼バーナー受けに灰が溜っていたら、燃焼バーナー受けを取り外し灰を処分します。

・燃焼室ロストルに灰が溜っていたら、掃除用ホウキで灰をロストルの隙間から灰トレイに落とします。

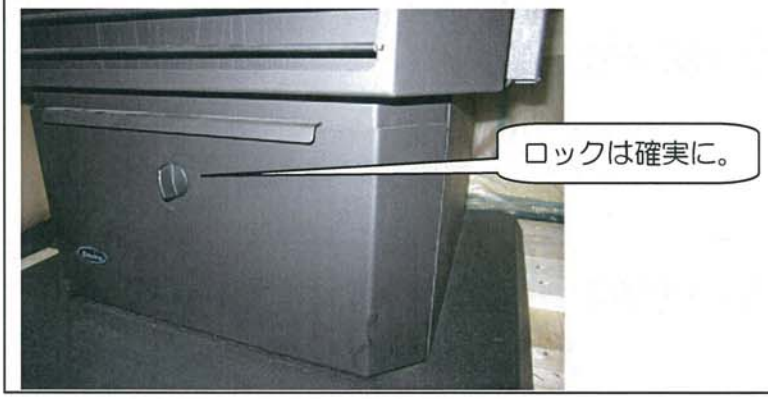
・ガラス面はススや灰が付着して汚れます。かたくしぼった雑巾等で拭き取ってください。ガラス面を拭くときは、消火直後等のガラス面の温度が高い時には行わないでください。ガラスにヒビが入ったり、割れることがあります。また、すぐにガラス面にススや灰が頻繁に付着するようであれば、燃焼室内側のガラス面と扉の隙間に灰が溜っていることがあるので、掃除用ホウキや掃除機で取り除いてください。



※写真は「ペレット Mini-A」

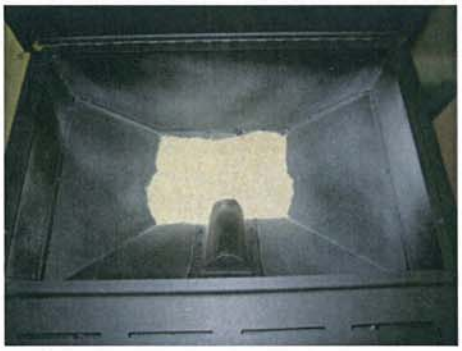
◎灰トレイの灰の除去

・灰トレイに灰が溜っていたら処分して下さい。
灰を処分し終えたら、確実に元の位置に戻してください。着火ミスや燃焼不良の原因となります。



◎燃料タンクの掃除

・燃料タンクにペレット燃料の粉が溜っていたら、掃除機等で取り除いてください。粉が溜ったままの状態で使用すると、ペレット燃料が燃焼バーナーへ供給されにくくなり、着火ミス、燃焼不良、火力が大きくならない等の原因となります。



●掃除は毎日することをお勧めしますが、燃焼時間、燃料、燃焼具合によって灰の発生する量が異なりますので、燃焼バーナーの底の穴がきちんと開いていることを確認して下さい。

●日常の点検・お手入れとは別に１～２シーズンに１回程度の定期点検が必要です。（本体のオーバーホール及び排気筒内の掃除）

【無料修理規定】

1．取扱説明書、本体貼附ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障した場合には、お買上げの販売店または弊社指定店が無料修理致します。
2．取扱説明書に記入してある販売店に修理を依頼できない場合は、販売元までお問い合わせください。
3．保証期間内でも、次の場合は有料になります。
　(イ)取扱説明書、本体貼附ラベル等の注意事項に従わない誤った使用、及び不当な修理や改造による故障や損傷。
　(ロ)お買上げ後の、器具の転倒、落下、衝撃・輸送等による故障や損傷。
　(ハ)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、異常電圧、公害その他環境要因による故障や損傷。
　(ニ)推奨外の燃料の使用による故障や損傷。
　(ホ)部品の消耗による故障や損傷、部品交換及びメンテナンスの費用。
4．本書は日本国内においてのみ有効です。

EF3Bi FS　**保証書**

見本

保証期間　本体1年間

※お買上げ日　　日

※お 客 様　ご芳名　　様

〒□□□-□□□□

ご住所

〔電 話　(　　)　　〕

※印欄に記入がない、あるいは購入・支払いを証明するものがない場合は無効となりますから必ずご確認ください。

本保証書は本書記載内容（上記）により無料修理をおこなうことをお約束するものです。
お買い上げ日から左記期間内に故障が発生した場合は、本書を持参の上、左記の販売店に修理をご依頼ください。

※販売店名・所在地・電話番号

愛情点検

★長年ご使用のペレットストーブの点検を！

●ペレットストーブの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後7年です。

ご使用の際このようなことはありませんか	●炎が異常に黄色い。 ●予熱時間が異常に長い。 ●運転中異常な音がする。 ●その他の異常・故障がある。	▶	ご使用中止	故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検・修理をご依頼ください。

お客様へ…おぼえのために記入されると便利です。

型　　式	EF3Bi FS	お買上げ年月日	年　月　日
お買上げ店名		（電話番号）（　　）　－	